

エコチル応援メッセージ

富山大学学長補佐 永山 くに子



2011年1月にスタートした「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」は、2014年3月に全国で10万組が登録され、富山県内でも約5600組の方々の協力をいただくことができました。目標を達成できたことをうかがい、とてもうれしく感無量です。

当初、臨床現場でのリクルートなど、困難な状況が予測されたなか、調査協力者との信頼関係を構築できなければ、このような成果を成し遂げることはできなかったと思います。その背景には、富山ユニットセンターの積極的かつ懸命な啓蒙活動、直接リクルートに協力いただいた地域の医療機関や厚生センターなどの関係者の地道な努力があったからこそ、と思います。そしてなによりも、エコチル調査の意義を理解し同意された妊婦の方々、そのパートナーとお子さまたちに感謝しなければなりません。

今後、エコチル調査は継続して13年間かけて実施されます。家族とともに歩みが始まると表現したほうが適切かもしれませんが。顧みますと、エコチル調査開始直後に発生した東北の大震災、それに伴う環境・日常生活の急展開は大きなものがありました。とりわけ、福島県とその近隣地方で発生した原子力発電所の事故は、先行きの見えない大惨事となりました。放射線被ばくに伴う生活環境汚染への対応や環境要因が健康に及ぼす懸案事項への対応は、道半ばであり、大きな社会問題となっています。

エコチル調査に協力してくれたお子さまたちが、小学校を卒業する2027年の日本はどのようになっているのでしょうか。古より「継続は力なり」との諺があるように、これからの13年間は多くの人々の力を借り、支え合いながら結果を積み重ねてゆくことに費やされるエネルギー、何がおきようと、それに立ち向かうべきエネルギーが再生されてゆくことを祈念しています。

日本各地において、少子化や消滅集落による村落の存亡の危機が叫ばれるなか、エコチル調査は、次世代を担う子どもたちの健やかな成長と発達について検討し、環境との関連を見極めてゆく絶好の機会といえます。今後、エコチル富山ユニットセンターが、地域医療・保健の課題にも対峙する拠点となることを切に願っています。

平成26年9月